1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団敬和会		
事業所名	グループホームとおの		
所在地	岩手県遠野市松崎町白岩１３－３０－８		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	平成28年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0370800229-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方々とも気軽に会話できるような関係性が出来てきており、地域には積極的に出て行くようにしている。立地的にも自治会館、公共機関、保育園もそばにあり、恵まれており、その環境を生かすようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1. タブレット（電子端末）導入により利用者の情報をその場で記入し、全職員が共有し支援するシステムが確立されている。
2. サロン活動（かかしの会）、保育園児、地区自治会などとの交流が活発に行われ地域と一体化している。
3. ペット（2匹の猫）の飼育により利用者や職員の癒しとなっており、日々の生活が和やかに送れる環境である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に見える場所に掲示している。そして、何事においても目指すことは理念であり、利用者様への関わり、地域交流等で、理念を目指して取り組んでいる。	和紙に習字で大きく書かれた理念「その人らしさを大切に明るく共に笑顔で過ごせる安らぎの家」が廊下に掲げられている。新採用者研修は理念の共有から始められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として、地域の行事、サロンへの参加。ご近所の方とも日常的に会話できる関係性を築くようにしている。	町民運動会見学、地域の祭りの踊りの練習の場に駐車場を開放したり、ハロウィンには保育園児が訪問し踊って見せてくれて、お返しに、利用者も仮装し、お菓子を届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成27年1月より、市内のグループホーム6箇所と、包括支援センターとの協同で、認知症カフェを月に1回開催している。参加してくれている方は少人数ではあるが、経験してきたことを生かして相談に応じたり、支えていけるようになりたいと取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、地域との行事の話しあいをしたり、火災訓練の協力体制の話しあいをしている。また、職員の勤務体制のお話しもさせていただき、職員不足時に紹介していただいたりし、協力していただいている。	運営推進会議では、避難訓練や職員体制の協力、地域行事の情報交換・参加体制などの話し合いがもたれている。火災発生時に地域住民へ知らせるために外用ベルを設置したり、事業所の運営に活かした取り組みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課がおかれている福祉の里は近くであり、すぐに行きやすい環境にある。運営上、相談がある時は時間をとっていただき、お話ししてくれるので、相談しやすい。認知症カフェのことでも相談にのっていただいていた。	市の担当課は近くにあり、日常の散歩で立ち寄れるところである。事業所の実情も十分に理解し、協力をいただいている。「認知症カフェ」（市内6ケ所のグループホーム共同で行っている）の立ち上げの時にも、指導・助言を受けて、現在は、地区センターの一角で月1回開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上玄関の施錠はしているが、日中は施錠はせず、玄関に誰かいるのが分かるようにセンサーを設置している。また、身体拘束にあたることはしないように努めている。	出入りは自由に出来るよう、玄関には施錠していない。防犯上夜間は施錠している。言葉による拘束についても日常ケアの中で行わないように話し合われている。10月は家族向けに、11月は職員向けにイライラや怒りをコントロールする内部研修が行われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について研修し、虐待にあるようなことをしないように意識して努めている。また、10月、11月の予定で、虐待防止につながる研修を実施する予定。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、権利擁護につちえの勉強会を実施している。実際、日常生活自立支援事業を活用している利用者様もいたことがある。現在は特に権利擁護にあたる方がいないが、今後、活用できる時があれば情報として伝えれるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の改定に時には説明をし、お話しを聞くようにしている。実際、今後の金銭的な不安をお話ししてくれているご家族もあり。その方と、今後の事の話しあいをすこともある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、ご家族から利用者様のことに関してお話して頂いたりしている。それから、ご家族とのお話しから、アロマセラピーが認知症に効果があるというお話しがあり。職員も以前、研修で香りについて聞いてきたこともあったので、今後、香りを取り入れていきたいと考えている。	運営推進会議で、利用者家族の代表者から意見・要望が積極的に出る会議となっている。例えば、「アロマセラピー」が認知症に効果があるという話があり、職員も研修で学んでいたこともあり、事業所として取り組む方向でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部は、現場職員の意見の聞き取りをして地域性の特色も考えながら行事費等を提示してくれている。また、人事の件に関しても、一方的な意見ではなく、事業所の意見も聞いてくれている。	職員からの意見要望を管理者、法人本部が積極的に聴取する体制が出来ている。職員提案で改善されることで、職員のケア意識も上がっている。例えば、ペット（猫）をホームで飼うこと、身体機能の低下している利用者に耐圧分散マットの購入などが検討例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	通常の週休の他に特別休暇を取得できる環境にある。また、研修の参加を推進してくれており、学ぶ機会をとってくれているので、意欲向上につながっている。資格取得時は一時金の支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加することを推進してくれている。そして、様々な研修を法人PCで確認できる掲示板がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の小規模事業所との会議、交流会を実施。また、遠野市内のグループホームとの交流、合同研修会も開催している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい場所での生活に大きな不安があることをきちんと理解するようにし、本人、ご家族からのお話しを聞いて対応するようにしている。安心して来ていただけるように話やすい雰囲気を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所した後にどうなるのかの不安があるので、気になる事は聞き取りして、回答できることはし、対応できることはしている。そして、ご利用者様同様、話しやすい雰囲気作りに努めている。特に挨拶には注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい生活に馴染んでいただくことを考え、その為に、本人、家族の不安に思っていること、感じている事を聞いたり、様子観察したり、対応するようにしている。食事の席等、他の利用者様との関係性もよくなる様に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、それぞれの出来ることを生かしていただけるようにしている。ゴミ捨て、掃き掃除、野菜切り、盛り付け、洗濯物たたみ、干し方、米とぎ等、日常的に一緒に行っている。そして、とても頼りにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、生活の様子をお伝えし、家族と共に過ごせる時間を大事にしている。毎日、来てくれる家族もあり、ご本人との関わりを大事にしてくれている。また、ご本人が電話したいような時には電話したり、時には、来ていただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からお話ししに行っていた美容院さんへ行き、お話しをゆっくりする時間を設けたり、以前通っていたデイケアの馴染みに方に会いに行ったりしている。	入居前から利用している美容院でセットしてもらったり、仕事をしていた時の仲間が訪ねてきて、話をしたりと、馴染みの所や人との関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のあうあわないがあり、トラブルになることもある。その関係性を職員は理解して間に入るようにしたりし、利用者様同士が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度、同じ法人の老健に入所するために退所した方がいたが、その後も入所の方と共に面会に行き、お話ししたりしている。また、必要があれば、退所した方であっても相談には応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような生活をしてきた方なのか本人、家族に聞いたりし、ホームでの生活に生かせるようにしている。たとえば、自宅にいる時から毎日散歩に出ている方は、毎日散歩に行っている。	日常生活の話し合いの中から、その人の思いや意向の気付きを記録（タブレットに）し、職員が情報共有し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活暦か、生活環境だったのか、特に馴染みのあることは何か等、本人や家族から聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の１日の過ごし方を記録。その記録を見て、心身の状態、出来ることの把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、現状における必要なことを話しあって良い関わりができるようにしている。また、ご家族ともどのようにしていくかお話しを聞くようにしている。	日々の生活の中から利用者の意見・要望を聴取し、家族からは、面会時や電話で確認しながら、月1回開かれるカンファレンスの中で、確認し合っている。散歩を多くして欲しい、服薬を自己管理できるようにして欲しいなどの要望に応えた支援を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録をしており、更に、共有すべきことは気付きとして記録システムで全員が確認できるようにしている。そして、その記録を元に見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所としての多機能について考えてみたが、現在までで、特に変わって取り組んでいることはないように思う。今後、柔軟に対応していかなければ行けに場面も出て来ると思うので、その時には色々な視点で検討できるようにしたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出かけて本を選んできている方がいる。また、地域のサロンに参加したりし、事業所内だけではない時間をもつようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医のままで継続している。それ以外の医療機関に受診しなければいけない時はご家族と話しあって決めている。	利用者全員が入居前のかかりつけ医を受診している。通院は家族対応が原則であるが、必要により職員同行による受診もある。往診もあり受診した翌日には薬剤の管理指導をしていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制が整ってからは、看護師に相談でき、安心感がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してから、退院までの間に定期的に面会に行き、看護師から様子を聴いてきている。それを元に、退院後の対応方法を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年の7月より、訪問看護ステーションとの医療連携体制が開始になっており、それをきっかけに、語家族様とは、終末期について話をすることが少しづつできるようになった。そして、ホームとして希望には答えたいと思っているし、自分たちの出来ること、出来ないことの話もするようなことが少しづつだが話せている。	訪問看護ステーションとの医療連携体制ができたのをきっかけに、看取り介護の職員研修を行った。家族とは終末期について少しずつ話し合いが持たれている。利用者の意思確認は未だである。	看取り介護について、出来ること・できないことを含めて説明し、利用者の意思確認していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、救急救命講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定規定に行い、特に新しい職員が訓練できるようにしている。火災時の地域の方々との協力体制は出来てきており、訓練も一緒にしている。火災時の一時避難場所に自治会館を開放していただくことになっている。地震や雷等で電気が止まった時の為に、ガス発電機を備えている。	地域の方々と、火災時における協力体制が出来ており、今年は区長他4人のお手伝いがあった。おととしから夜間を想定した訓練を行い、今年は夜間帯の訓練を行った。反省として実際の夜間帯は避難路が暗すぎることへの対応を検討中である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解するようにすることで、その方の特徴を尊重できるような対応になるようにしている例えば、。床のゴミを手で拾ってくれている方に対し、他の利用者様は汚いと話したりするが、私達は、感謝し、ゴミ箱の場所を教えている。	風呂場の脱衣所に衝立を置き、急に他人が入ってきても羞恥心を感じさせないで済むようにしたり、トイレの誘導も他の人に気付かれないような声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを常に表している方の対応で精一杯になり、いつもと同様に過ごしている方々の思いを聞いたり、様子観察する余裕が欲しいと感じている。普段、ドライブにもいけずにいるので、時々は出かけるようにし、いつもは意見をほんとんど訴えてこない方が、「久しぶりに出た。気持ちいい。」帰ってくると「とっても楽しかった。ありがとう」と言ってくれており、そのことから、普段は言わずにいるだけではないか、もっと外に出てみたいと思っているのではないかと感じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースがあり、食後は休む方、そのまま起きている方とそれぞれである。そのことを活かし、昼寝しない方には、夕食の野菜切りお願いしたりしている。また、散歩に行きたい、知人に会いたいという希望がほぼ毎日ある方がおり、時間もいつも違うができるだけ叶えられるように調整している。駐車場のお花を摘んで花瓶にさしたいと一緒に摘んできて飾っていただいたりもしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については馴染みの場所に行く方もあり。パーマもかけてきている。着ていただく衣類は自分で選べる方は出来るだけ一緒に選んでもらっている。また、ご本人は着たい服のことは言えなくても奥様が教えてくれ、衣替えもしてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みは把握するようにし、麺類が得意ではない方には少なくし、ご飯を提供する等の対応するようにしている。それから、季節の食材を頂いたときには、初物だねと皆で見て喜び、メニューを変更し、食べて喜び季節の食材のパワーを生かしている。(栗や枝豆、スイカや夕顔等)また、野菜切り等の下準備、盛り付け、後片付けは利用者様と一緒に行っており、とても助けていただいている。	出来る方には、下準備、盛り付け、下膳、テーブル拭きなど参加していただいている。日々ケアしている中から好みを聞いたり、地域から季節の食材いただいた時はメニューを変更し、季節の料理を味わっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は多めにしている方があったり、周囲と分からないように少なくしている方があったり、体重の増減見ながら変更したりしている。水分摂取においては、できるだけ、多めに飲んでいただけるようにしているが、お茶だと飲まない方、コップを変えると飲まれるせ方、お茶ゼリーにすると摂取できる方と個々によって好みもあり、摂取状況を見て、対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お金を持っていることで安心する利用者様には小額でご本人が持っている。そして、買物へ行き、飴等購入したりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけ、トイレに座っていただくようにしており、オムツ類も使用する時間を少なくしようとしている。トイレ誘導しているうちに排泄のパターンが分かってくるので、定時の誘導ではなくその方のパタ-ンでの誘導を心がけている。	介護度が軽度の方が多く、自立で排泄する方が多いため、日中のおむつ使用者は1名（夜間は3名）、パット使用者は2名と少ない。排泄誘導を要する方は、チェック表によりパターンで誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトの提供はしているが、その他に、本人用として、ヤクルトを準備していただき、毎朝、飲んでいる方2名あり。また、水分不足でも便が硬くなることもあるので、水分の促がしは適に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中や午後早くに入浴の声かけをすると入る確率が少ない方もあり、その方にあったタイミングで声かけし入浴していただくようにしている。それから、脱衣場にスクリーンを設置し、着替えているところに急に入って恥ずかしい思いを感じないようにしている。	できる限り、1日おきの週3回は入っていただくようにしているが、少なくても週2回は入浴して頂いている。5月には菖蒲湯、12月には、ゆず湯を楽しんで頂いている。異性による介助は承諾のある方のみとしている。着替えが億劫なのか、積極的に入浴を好む方が少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪かった方に対し、ご家族からお話し聞いたりし、自宅では掛け物多くかけて重く寝ていたと聞き、多くかけて、重めの布団にしたら寝つきがよくなったということもあった。その方にあった睡眠環境があると思っているので、自宅で使用していたリネン類を持ってきていただくようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服状況は把握し、様子観察している。また、その方の変化をドクターに伝えることで、内服薬の調整をしていただいたりし、過剰に内服しないようにしている。特に精神薬。遠野病院のかかりつけの方で往診している方々は、薬剤指導もあり、相談しやすい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在の入所者の中で嗜好品の希望の方はいないが、以前は晩酌する方があり。夜、お部屋でおつまみと一緒に晩酌しながらテレビ見て過ごしていた。今後もそのような希望ある方には対応していきたい。それから、特に女性の方にはなるが、今までしてきた家事仕事を一緒にしたり、収穫物のことをしたりすることで張り合いになっていると感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい、なじみの方の所に行きお話ししたいという希望には出来るだけこたえられるようにしている。それから、地域サロン企画のバスハイクでは温泉やぶどう狩り等、普段行けないような場所に一緒に出かけたりしている。その際、地域の方も積極的に介助の協力をしてくれている。	地域の方と知り合いになり、散歩途中でも立ち寄ってお話をしてくるなど地域に溶け込んでいる利用者もいる。地域サロン企画のバスハイク（温泉入浴、ぶどう狩りなど）には、希望者が参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心する利用者様には小額でご本人が持っている。そして、買物へ行き、飴等購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人より手紙が来る方がいたり、ご本人から電話かけたいとは話さないが、気持ちが不安定な時、こちら側から電話しようと提案しご家族とお話して安心していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼休みしている時間には電気やテレビ消したりし、生活にメリハリがあるようにしている。庭のお花をとってきて花瓶にいけていただき、見える所に飾ったりし、季節感を感じていただけるようにしている。	ビニールの袋を利用したハロウィンの飾り物が食堂にあるほか、廊下には職員手作りの家族新聞が掲示してあり、玄関、廊下、食堂に季節の花が飾られている。ペットの猫も利用者、職員に撫でられながら、横たわっていた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース内でも一人で過ごせたりする環境にある。それから、輪に入るのが苦手な方には、職員が橋渡しになるような関わりをするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテレビ等お部屋に持って来ている方もあり。それぞれ、ご本人にあったお部屋環境になるようにしている。	ベッド、タンス（2個）、加湿器は、事業所で設置したものである。テレビを持参してみている方は1名いる。テーブル、イス、自分好みの写真（天皇陛下の写真）など、自分が使っていたものや、癒せるものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸にはトイレと書いたものを飾ったり、部屋の前には、名札を下げている。そして、ホーム内、整理整頓に心がけ、利用者様が混乱ないようにしている。		